

1 単元名 二つの文章を読み比べて意見交流会を開こう「テクノロジーとの付き合い方」
「テクノロジーと人間らしさ」

2 単元の目標と観点別評価規準

- さまざまな文章について関心をもって読み、自分の考えをもととする。
(関心・意欲・態度)
- さまざまな文章について、論の進め方や内容について読み、自分の考えをもつことができる。
(読むこと)
- 語句の効果的な使い方や表現上の工夫を理解することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
テクノロジーに関する文章を進んで読み、自分の考えをもととしている。	文章を読み比べて、それぞれの文章の書き方や内容について評価しながら読んでいる。	語句の効果的な使い方や表現上の工夫を理解している。

3 単元の指導について

(1) 生徒観 (平成26年6月6日実施 調査人数20人)

「筆者の論の進め方の読み取り」と「筆者の考え方について自分の考えをもつ」ことについて、実態調査を行った。その結果、筆者の論の進め方を問う問題では、正答率が50%に達しない生徒は12人いた。また、筆者の考え方について自分の考えを記述する問題でも、正答率が50%に達しない生徒は12人いた。結果を分析すると、筆者の論の進め方が捉えられないために、自分の考えが定まらない生徒と、考えの表現方法に課題がある生徒が多いことが分かった。そこで、筆者の論の進め方を捉える方法や読み取ったことを表現する方法を復習させたり、学習の結果に課題が残る生徒には、再度の学習を通して、身に付けさせたい力である「二つの文章を読み比べ、構成や展開、表現の仕方について評価し、自分の意見をもつこと」を習得できると考えた。

(2) 教材観

生徒は、第2学年「恥ずかしい話」において、筆者の論の進め方の工夫を捉えたり、内容について自分の考えをもったりする学習を行ってきた。本単元では、「テクノロジーとの付き合い方」、「テクノロジーと人間らしさ」というテクノロジーに関する文章を二つ取り上げる。身に付けさせたい力を「二つの文章を読み比べ、構成や展開、表現の仕方について評価し、自分の意見をもつこと」とし、この二つの文章を読み比べて評価する方法を習得し、さらに活用する力を身に付けることをねらいとする。

(3) 指導観

本単元では、身に付けさせたい力を付けるための言語活動として、「情報を比較して読み、考え、意見交流会を開く」を通して指導し、学習過程の中に生徒の課題解決の過程を組み入れる。また、1時間ごとの評価を次時以降の個別指導に生かすため、習得と活用を繰り返す単元の流れを工夫して構成する。評価は、使用する学習プリントに直接助言を書き込んだり、主張・根拠・まとめなどの文章構成を色別カード式の原稿用紙を活用して書かせるなどして、丁寧に行う。そして、次時の学習の手立てを講じ、指導と評価の一体化を目指すことにより、本単元の目標達成を目指す。

(4) 具体的な手立て

ア 評価を次時の指導に生かす指導の工夫

毎時間の評価を次時に生かす指導を工夫し学習のつまづきをなくすため、身に付けさせたい力の習得と活用を繰り返すスパイラル型の単元構成にし、付けたい力と生徒の実態に合わせた言語活動を設定する。第1次では、本単元のゴールとして二つの文章を読み比べて考えたことについて意見交流会を開くことを伝え、単元の見通しをもたせるとともに、学習計画表に意見交流会に向けた自分のめあてを書かせ、文章をしっかり読み取る意欲を最後まで持続できるようにする。めあてには「自分の意見をもつために文章をよく読み取る。」、「文章を正確に読み取って、意見文が書けるようにする。」、「意見交流会で自分の意見をはっきりと話せるようにする。」などがあった。

イ グッドモデルを活用した指導の工夫

第2次の第3時では、教師が社説を読み取って意見文を書き、グッドモデルとして生徒に提示する。その際、社説のプリントと意見文とで、同義の箇所には同じ色を付け、対応が一目で分かるようにしておく。また、第4時の導入部では、第3時で書いた生徒の意見文の拡大コピーをグッドモデルとして全体に提示する。

ウ 生徒同士の相互評価を学習に反映させる場の工夫

第2次の第4時では、意見文を書いた後に校正をする時間を設ける。主張の立場が同じである3人グループをあらかじめ編成し、互いの意見文を読み合っって評価し、校正に生かせるアドバイスを付箋に書いて貼る。具体的には、評価の観点を「内容」と「構成」の二つに絞り、それぞれ違う色の付箋を使用する。

4 単元の指導計画（6時間扱い）

第1次 単元の最後に意見交流会を開くことや、そのために学習する内容を知る。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

第2次 二つの文章の論の進め方や内容を読んで比較し、自分の考えをもつ。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間

時	学習内容・活動	観点別評価規準
1	新聞の社説を利用して、二つの文章の論の進め方を比較する方法を習得する。	主張や事実と意見など、論の進め方を比較する方法を理解している。 (読む能力) 語句の効果的な使い方や表現上の工夫を理解している。 (言語についての知識・理解・技能)
2	習得した方法を活用して「テクノロジーとの付き合い方」、「テクノロジーと人間らしさ」を読み、比較をする。	論の進め方に着目して読み、比較をしている。 (読む能力) 語句の効果的な使い方や表現上の工夫を理解している。 (言語についての知識・理解・技能)
3	新聞の社説を利用して、読んで考えたことを表現する方法を習得する。	読んで考えたことを表現する方法を理解している。 (読む能力)
4 本時	前時に習得した方法を活用して、「テクノロジーとの付き合い方」、「テクノロジーと人間らしさ」の二つの文章を比較し、読んで考えたことを表現する。	前時までに習得した知識や技能を活用して、読んで考えたことを表現している。 (読む能力)

第3次 友達と交流し合い、感想を述べ合う。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

5 本時の指導

(1) 目標

読んで考えたことを表現する方法を活用して「テクノロジーとの付き合い方」「テクノロジーと人間らしさ」の二つの文章を比較し、読んで考えたことを表現することができる。

(2) 準備・資料

前時に生徒が書いたよい例の意見文の拡大版、前時に評価規準に達しなかった生徒用色別カード式原稿用紙、段落分けされた原稿用紙、A・B評価の生徒用原稿用紙

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題を知る。 読んで考えたことを表現しよう。	<ul style="list-style-type: none"> 意見交流会を開くことが単元のゴールであることや、交流会で発表するために読んで考えたことを表現する方法を習得してきたこと、本時ではそれを活用していくことなどを十分確認し、本時の学習の必要性を周知する。
2 本時の学習活動の見通しをもつ。 ・生徒の意見文を参考に、書き方を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に友達が書いたよい意見文を使って、書き方を想起する。
3 読んで考えたことを表現する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に書いた意見文がB評価だった生徒（主張や根拠を示すことはできているが、説得力が充分ではない）には、意見文に文章の構成と内容の改善点を記入して、本時の学習がスムーズに進められるようにする。 前時の学習で評価規準に達しなかった生徒（自分の考えが書けない）には、色別カード式の原稿用紙を準備する。また、段落分けができなかった生徒には、段落分けされている原稿用紙を準備する。さらに、第2時で本人が読み取ったことや考えたことをあらかじめ確認し、読み取れなかった箇所などに助言を入れることで、自力で表現できる喜びを味わえるようにする。
4 互いの考えを交流する。 ・グループで確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 同じ立場を主張する生徒同士が同じグループになるように、第2時の学習プリントから、あらかじめグループ編成をしておくことで、交流しやすくする。
5 交流を基に再考し、加筆修正する。	<ul style="list-style-type: none"> 構成と内容の二つの視点に着目するよう指示する。 評 前時までに習得した知識や技能を活用して、読んで考えたことを表現している。 （意見文の構成や内容）
6 本時の振り返りと、次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表を利用して、本時の振り返りを行う。 次時は、本時の学習を生かして意見交流会を行うことを知らせる。 意欲をもって本時の学習を行ったことを称賛し、満足感を味わえるようにすることで、さらに次時への意欲を喚起する。